

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

#5 大堀精一監修 『マンガでわかる!小論文 頻出テーマ編』  
知識がなければ自分の考えは作れない!

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

## (ご紹介)



大堀 精一  
おおほり せいいち

(株) Gakken 学校・社会人教育事業部(\*)  
「学研・進学情報」監修、小論文入試問題分析プロジェクトチーム編集長 (\*2022年10月1日より)

北海道大学文学部卒。学研に入社以来、高校生を対象にした雑誌・進路情報・小論文などの分野で仕事を続けてきた。

「自分の言葉を持って社会をリアルに生きる」をモットーに、毎年、全国各地の高校生・先生を対象に数多くの講演を行っている（コロナ前は年間200回以上）。

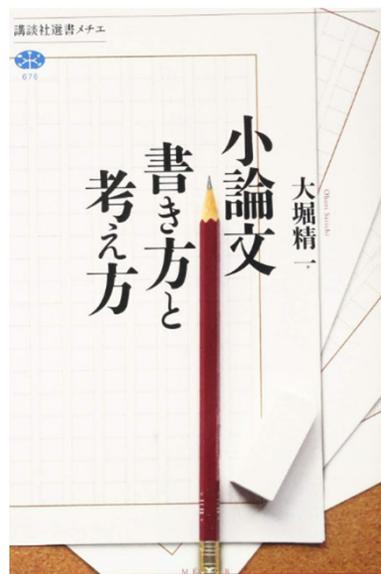




大堀精一(監修)『マンガでわかる!小論文 頻出テーマ編』  
Gakken (2022年9月)

### 目次 (Chapters)

- |                  |          |
|------------------|----------|
| 1. 格差社会          | 7. 環境問題  |
| 2. 人口減少社会        | 8. 教育    |
| 3. 社会保障・経済       | 9. 医療・福祉 |
| 4. 地域            | 10. 法・政治 |
| 5. SNS・コミュニケーション | 11. 国際   |
| 6. 情報産業・AI       |          |



大堀精一(著)『小論文 書き方と考え方』 (講談社選書メ  
チエ) (2018年)

それではご覧ください

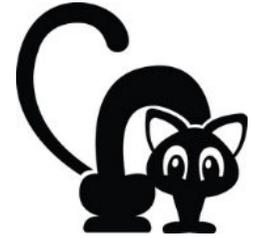
リアルに

# 自分の言葉を持って社会を生きる

---



# 自分の言葉を持つということ



- 
- どんな人も社会に出て経済的に自立して生きていかねばならない
  - 社会は友達関係でなく、価値観の違う人間の集まり
  - その中で自分の考えをしっかり持ち、相手を説得する力が必要
  - それが「自分の言葉を持つ」ということ
  - そのために「書く」「読む」という行為が必要になってくる
  - 「書く」という経験をくぐることによって、自分の中であいまいだったものが少しずつ形になってくる
  - 自分の考えを表明できると、自信を持って他者とやり取りをし、社会を力強く生きていける
  - 「読む」ことによって様々な意見や主張を知ることができる
  - そうしたスキルを身につけることに小論文を学ぶ意義がある

# 学校は社会について教えない

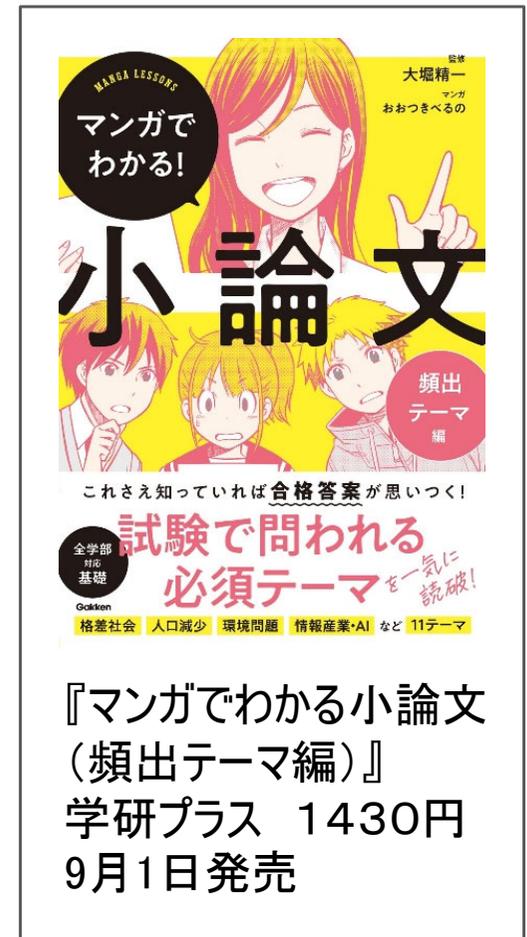


- もうひとつ小論文の重要な要素は、現実社会が対象になること
- 大学入試の小論文では、いま私たちの社会が直面している様々な問題が出題される
- 自分たちが入っていく社会を考える契機として、小論文のトレーニングは入試で受験しない生徒にとっても重要な学びとなる
- 実際に大学入試で小論文を課す大学は多く、重要科目のひとつと言っている
- しかし、日本の学校の授業はほとんど教科学習のみで、生徒が生きていく社会について教えない
- 小論文を多くの大学が受験生に課しているにも関わらず、学校の正課科目として存在しない

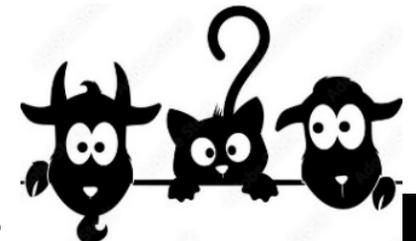


# 「知らないと書けない」

- 今の生徒は社会への関心が薄く、社会的知識が無いとよく言われる
- 実際、生徒の答えは表面的で内容の乏しいものが多い
- つまり、「知らないと書けない」
- そうした現状は生徒の問題であるより、社会について教えない日本の学校制度の問題とも思える
- 小論文に苦手意識を持つ生徒に、必要な知識を提供する入門書として『マンガでわかる！小論文（頻出テーマ編）』を刊行した
- 第1章の「格差社会」から第11章の「国際」まで入試で問われる頻出テーマで構成されている



\*『マンガでわかる！小論文（頻出テーマ編）』の続編として「書き方編」が制作進行中。



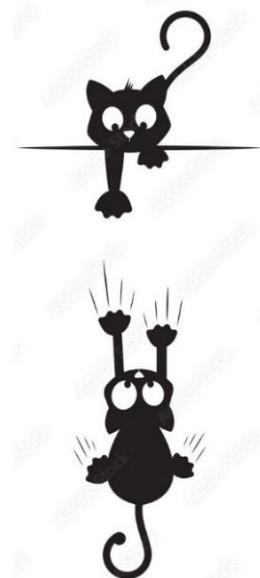
# CHAPTER6 情報産業・AIより「プラットフォームビジネス」について



# 本書を出すに当たって留意したこと



- 「やさしく」しても、レベルは落とさない
  - マンガという媒体を通して、頻出テーマをやさしく解説している
  - ただし、やさしくというのはレベルを落としてという意味ではない
  - 各テーマともすべて実際の入試レベルは維持されている
  - 「理解が深ければ深いほどわかりやすく表現できるはずだ」(吉本隆明)という言葉がある
- 断片的に覚えるのではなく、関連づけて考える
  - 断片的な知識に終わらないようにテーマ同士の関連性を意識して構成した
  - 社会問題は様々な要素が絡み合っているため、あらゆる学部系統の学問が関係している
  - 知って覚えるのではなく、深く横断的に考える



# 学校の外に出て未知の大人に出会う



- 小論文的な内容を学校に根付かせるための方法として「探究」の活用がある
- 「探究」を単に生徒が興味を持った範囲にとどまらせず、より深く進路に繋げるには、書く内容にリアリティを持たせる必要がある
- 志望理由書と関連させることも有効
- 具体的な経験をする⇒学校の外に出て、仕事をしている未知の大人の話聞く
- セミナーに参加したり、美術館や博物館に行くのでも良い
- ふだん感じたり、思っているのとは違う視点でものを見る経験を積むことで新しい発見が生まれる
- 質問する力を身につける
- 日本の学校教育は授業の聴き方は教えてきたが、質問の仕方は教えてこなかった

